

長南町

町長 藤見昌弘 様

人口減少対策に関する

提 言 書

(中間とりまとめ)

平成 25 年 10 月

長南町過疎対策検討委員会

は じ め に

長南町過疎対策検討委員会は、過疎解消事業の推進に関し熱意やアイデアを持つ町民等が自主的に調査や検討を行う場として、平成 24 年 10 月に町長から委嘱を受けて設置され、現在までに 15 回にわたり過疎対策の中の人口減少対策、特に若年層の移住定住の促進策等について審議を重ねてまいりました。

この提言書(中間とりまとめ)は、その審議結果を中間的に取り纏めたものであり、

1, 緊急的な対応を行うべき政策

(提言 1～3)

2, 今後策定する政策の方向性(最終提言に向けて今後さらに協議検討する政策)

(提言 4～6)

から構成されており、町当局に中間段階でこの政策を提出することにより、町の施策等との調整を図り、最終的な提言書をより実現的でかつ有効的なものとするためです。

また、この緊急的な対応を行うべき政策は、本町の過疎対策の中でも特に早急な取り組みが肝要とされるものを掲げておりますので、町当局におかれましては、新年度予算案に可能な限り反映していただきたく、至急ご検討いただければと切望するものであります。

なお、最終的な提言書につきましては、今後策定する政策を審議し纏めて本年 12 月中旬の提出を予定しております。

平成 25 年 10 月

長南町過疎対策検討委員会
委員長 岩瀬康陽

目 次

1, 長南町の人口減少に係る認識	-----	P1
2, 緊急的な対応を行うべき政策	-----	P3
提言 1	-----	P5
若年層を取り込み元気なまちづくりの火をおこす情報発信		
提言 2	-----	P11
空き家を活用した長南町への定住促進		
提言 3	-----	P15
市の復活による長南町の活性化と移住定住の促進		
3, 今後策定する政策の方向性	-----	P27
提言 4	-----	P29
農業経営のイノベーションによる長南町の活性化と雇用の創出		
提言 5	-----	P33
創造型産業の醸成と誘致による長南町の活性化等、新たな雇用の創出		
提言 6	-----	P37
子育て支援の拡充と交流拠点整備による長南町の活性化		
4, 提言書作成工程表	-----	P41

1 長南町の人口減少に係る認識

長南町の人口は、昭和 30 年代初頭の約 15, 000 人強をピークとして、我が国の高度経済成長に併せて若者の都市部への流出や第一次産業の衰退等により減少が続き、現在では 9, 000 人を下回っている状況にある。

また、65 歳以上の高齢者が人口の 30%を超えて平成 22 年 4 月には、国から過疎地域の指定を受けることとなった。

この間、町当局も人口減少の抑制や解消を図るため、子供医療費の助成や教育費負担の軽減事業などの子育て支援対策、また良好な住環境を提供する町営住宅整備や廉価な都市ガス供給事業等、様々な対策に取り組んできたが減少をくい止めるには至っていない。

このまま人口減少が続くと、空き家や空き店舗及び農業後継者の不足による耕作放棄地等の増大により、生活環境が悪化するとともに防犯や防災にも支障を来すことと思われる。また、良好な教育環境と社会インフラ並びに地域コミュニティの維持も難しくなる事が予想され、ひいては本町そのものの活力低下が确实視される。

現在、我が国は人口減少社会に入っており、一部の大都市を除く全自治体で様々な人口増加策を検討・実施し人口の誘致を進めている。

このため、早急に町を挙げて近隣市町村や他の自治体に勝るとも劣らぬ人口増加策を立案して積極的に人口減少対策に取り組み、若年層等の移住定住を促進させて人口減少をくい止め、人口の増加を図っていかなければならない。

2, 緊急的な対応を行うべき政策

提言 1

若年層を取り込み元気なまちづくりの火をおこす情報発信

提言 2

空き家を活用した長南町への定住促進

提言 3

市の復活による長南町の活性化と移住定住の促進

提 言 1

政策名：若年層を取り込み元気なまちづくりの火を起こす情報発信

1 目 的

本町の魅力的な地域資源を掘り起こし、情報として発信することによって、多世代、特に若者を中心とした世代に長南町をアピールして交流の機会を増やし、定住へのきっかけづくりを行う。同時に、町民に町のことを深く知ってもらい、郷土愛を育む。

2 現状と課題

長南町には、名刹の長福寿寺と笠森寺また熊野の清水を始めとして様々な名所旧跡（地域資源）や文化が存在している。しかし、これらの地域資源が県内や首都圏にも情報として十分発信されていないため、相対的に町の知名度が低い状況にある。現在、町では『長南タウンガイド』を作成し、見所多い自然豊かな町の魅力の発信に努めているが、設置場所が限られており、有効活用が行われていない状態にある。また、広域的な発信として町のホームページがあるが、こちらも主に町民向けで事務連絡的要素が強く、町外への発信力は弱いため、そのあり方を見直す必要がある。そして、このホームページや観光案内誌は、若者が目を引き興味が湧くような内容や誌面に乏しいため、本町に若者を呼び込み交流機会を増やすことが難しいと思われる。

このため、既存の発信媒体のリニューアルと、より戦略的な活用方法を意識した新しい媒体の開発を進めて、町外の人々、特に若い世代に「訪れてみたい町」（やがて「住みたい町」）としての長南町の魅力を訴求することが望ましい。これらのことは、ひいては住民にとっても、誇れる町の魅力の再発見につながり、愛郷心の醸成に役立つものとする。

なお、町、観光協会 各種団体によるマンパワーでの特産品やイベント等の積極的な売り込み（宣伝活動）も必要である。

3 政策の内容

(1) 『長南タウンガイド』設置場所の拡充

めばしい場所への案内資料設置（以下に例）

- ①市原鶴舞インターのバス待合室
- ②建設予定の圏央道SA
- ③海ホテルSA
- ④近郊にある道の駅（既存＋町内に「道の駅」の新設も含め）
- ⑤茂原長南ICのバス停にインフォメーションセンターを設置

(2) 観光案内板等の設置

町の魅力を来町者や交通通過者等に広くPRするため、

- ①現在、町観光協会で数カ所の観光地に町の観光案内板を設置しているが、幹線道路通行車両からの視認性が高い道路敷地や民地、またコンビニエンスストア等に名所旧跡（観光お薦めスポットまでの時間と距離及び説明書き）を記載した総合案内板の設置を拡大する。
- ②町と観光協会の協同で主要道路から名所旧跡までの誘導看板を設置し「蓮の町 長南・蛍の里長南等々」をPRする。
- ③「ちょな丸を探せ」の如く、町内随所にちょな丸のオブジェを設置する。
- ④各観光スポットにおいて観光客がスマートフォンを利用して、そのスポットの観光案内にアクセス出来るようにする。

(3) ホームページ(HP)の情報発信力強化

HP訪問者が町への興味や関心を増大させて、行ってみたいに住んでみたいなど思うようにするため、

- ①リンク先が細分化されている「長南町の紹介」ページを集約し、訪問者が一目で内容全体を把握できるデザインにする。（※注1）
- ②写真や動画・アニメーションなどイメージ喚起力に優れた手段を有効活用する。
- ③公民館や各種活動団体が開催している「イベント情報」を町で積極的に収集、HP上で掲載する。情報の充実化により、文化的側面からも交流人口の増加が期待できる。
- ④既存の観光情報の魅力の向上。
(例)ふるさと産品の育成

生産者の方々とその品物が購入可能なお店を紹介、また美味しい食べ方(レシピ)の特集など多面的に情報提供することで、販売促進につなげる。

(4) ネット世代を意識したPR手段の戦略的活用

町の接点となる情報発信者を増やすため、

- ①地元の各活動団体の既存のHPやブログの充実のため、町主催で講習会を開き、情報発信の活用を提案。自身の活動PRと長南町の魅力発信につながる情報発信を意識していただく。※団体例（商工会、青年会議所、JA、営農組合、蓮農家の組合、地元企業）
- ②ソーシャルメディアを活用したまちおこしに興味のある町民に呼びかけ、「伝え方セミナー」を実施。1人1人が長南町の情報発信者として意識を持ってもらう。
- ③町民を対象に、iPadのレンタル事業を展開（例：softbankが安価で提供している）し、講習会を開いて個々人のネットサービス活用を促す。

- ④町内にWiFi フリースポットの拡充をする。(役場、公民館は必須)
- ⑤インターネットラジオの番組を町が企画し配信をする。

ソーシャルメディア活用は、今まで町とつながることのなかった相手と、つながるきっかけを作り出すことができ、延いては現実的な「人とのつながり」にも成り得る。また防災機能の観点から、高齢者世代の事故後安否確認にも活用が期待できる。町としても先進例(例：佐賀県武雄市)に学ぶ研究チームを立ち上げる。

(5) 町のお宝を掘り起こすフリーペーパーの制作

町民の郷土愛を醸成し、町外の人にも長南町を知ってもらうため、

- ①写真やイラストを多用し、デザイン性の高い小冊子とする
- ②季刊とし、季節ごとの町の魅力を訴求する
- ③旅行社がつくるガイドブックとは異なる、現地でしかわからない情報を盛り込む
- ④特に住んでいる「人」の魅力、息づいている「文化」を伝える
- ⑤町民に向けて公募し、有志からなる編集チームを組織する。この編集自体が町民間の交流を生む。(取材するのにもされるのも町民。どこにどんな人がいるのかを知る機会となる)

紙媒体は記録性が優れているため、人を選ばず一定期間、保存できるアルバムにもなる。都内近郊にフリーペーパーの設置店を開拓することで、交流人口の増加へつなげる。

(例：大分県耶馬溪町「下郷村」のフリーペーパー『雲与橋』 ※注2)

(6) 防災無線の有効活用

町内行事共有化のため、

- ①母の日、父の日、敬老の日などの記念日に特別放送を流す。(※注3)

(例)「5月12日、日曜日、今日は母の日です。日頃お世話になっているお母さんへ、離れて暮らしているお母さんへ、天国で見守ってくれているお母さんへ、いつも以上にお母さんへの感謝の気持ちを大事にして、1日を過ごしましょう。」

- ②イベントを告知する。

町内で何かイベントが開催されるとき花火があがることがあるが、何をされているか分からない町民も多い。花火と合わせてイベントのアナウンスをする。

- ③ラジオ番組を制作し、放送する。

(例) 長南中の中学生に番組づくりを依頼。子どもまつり、花火大会、長南フェスティバル等、特別なイベントの日に、特設ラジオ放送局を設け、

そのイベントにまつわる町の伝統、歴史、文化、ユニークな話、知られざる話などを、発信する。

(7) 広報『ちょうなん』のリニューアル

若い世代にも親しんでもらうため、

- ①農業、まちづくり、ボランティア、芸能、文化の伝承などの分野で活躍している若者を紹介する。
- ②若者の意見や考えなどを紹介するコーナーを作る。(特派員を公募し、若い世代に任せるコーナーを新設する)
- ③毎月特集ページをつくり、表紙に「今月は〇〇特集！」と表示する。

(8) 高齢者やネットを利用しない層を意識した発信方法の充実

町の連絡系統(特にHP上での情報発信)から置き去りにされがちな層に、情報を公平に行き渡らせるため、

- ①まちの掲示板の見直し(設置箇所・掲示の仕方)をする。
- ②町が老人福祉施設と連携し、入所者等に町のニュースをお話しする時間を作る。

(9) マスメディアの戦略的活用

長南町の魅力を知らない不特定多数の人にアピールするため、

- ①新聞、雑誌、テレビ、ラジオなど各メディアに長南町のイベント情報や特筆事項などを提供し、メディア発信を積極的に促す。
- ②地域密着型のフリーペーパー、ラジオ番組、観光雑誌と連絡を密にとり、情報提供していく。

＜地域密着型フリーペーパー＞

シティライフ、オニオン新聞、ゆとりーと、かわら版、goo☆goo、ArtEditor

＜地域密着型ラジオ＞

bayFM

＜観光雑誌＞

ぐるっと千葉、るるぶ、じゃらん

(10) マンパワーによる宣伝活動の拡大

行政や各種団体等の人的資源を有効活用して、本町の特産品、町の事業、イベント等を広範囲に宣伝し、支援者や協力者を増やして、町の活性化を推進する。

4 参 考

※注1

一宮町役場まちづくり推進課が運営するホームページ

「一宮クリップ (ICHINOMIYA CLIP)」 <http://ichinomiya-iju.jp/index.html>

一宮町では緊急雇用対策事業を使用し、地元の広告会社に、専属カメラマンとライターを雇ってもらい制作

ICHINOMIYA Clip

千代田一宮町 移住お役立ち情報

自然から学ぶ

のんびりラックス ICHINOMIYA

千代田一宮町は、太平洋に面した自然豊かな町。東京からのアクセスの良さと、過ごしやすい自然環境に恵まれ、別荘地/第二居の居住地として注目を集めています。

イベント情報

この町のこの人

歴史と伝統のある環境
夢で終わらせない海のある暮らし
教育・医療・交通 情報を得て安心
移住を考える

Good Transportation
京浜線・外房線を通る「特急わかしお」で
東京駅から上総一宮駅へは約60分

はろはろ 自然から

2013.05.31 イベント いきいき安全なぐらみと音楽！

2013.05.30 イベント イベントカレンダー更新！

2013.05.24 イベント 市民健康講座！

2013.05.17 イベント 自然の恵み

2013.05.14 イベント 移住Q&A更新

千代田市一宮町一宮町 まちづくり推進課（直連）
一宮町移住定住相談窓口 ☎ 0475-42-2113

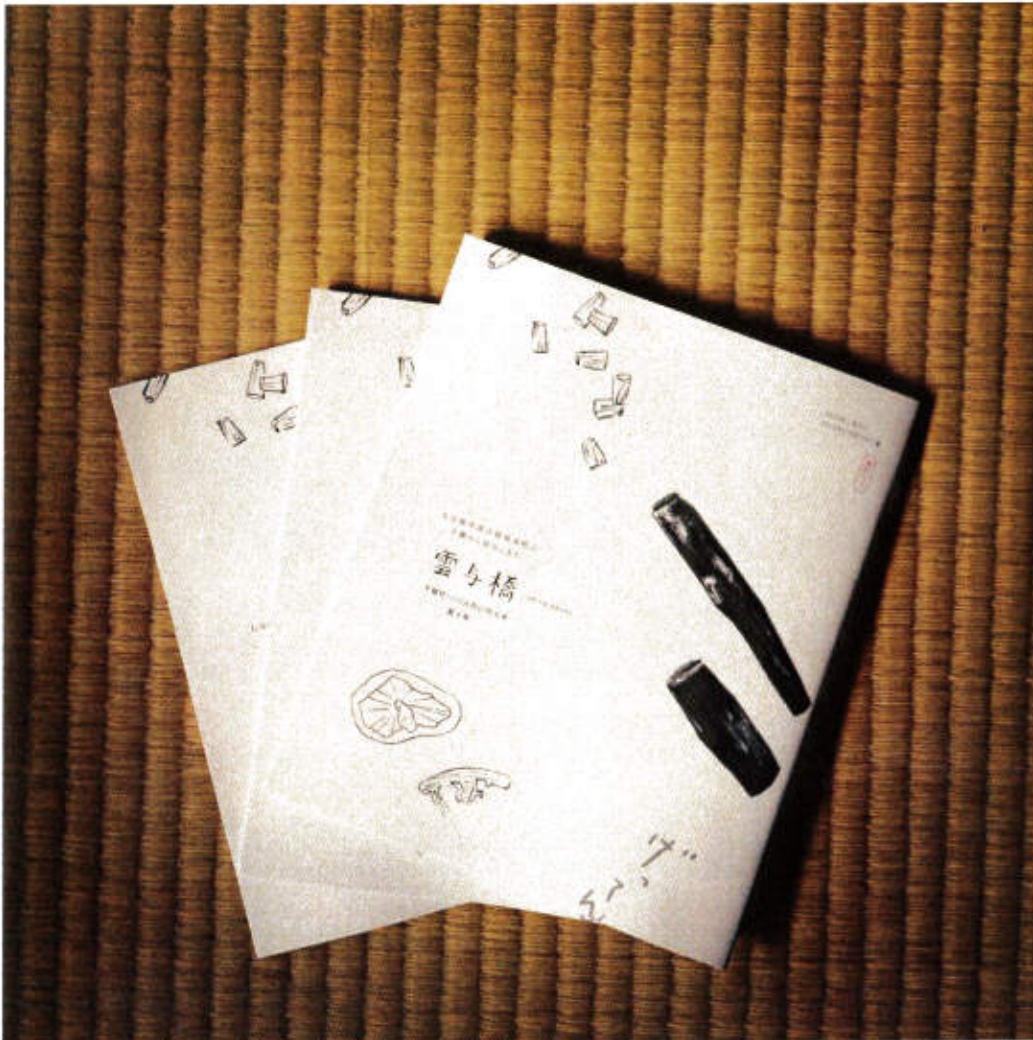
一宮町役場 <http://www.town.ichinomiya.chiba.jp/>
国府川町役場 赤堀子地区・国府川・国府川町役場・国府川町役場・国府川町役場

「はろはろ」お知らせでは、イベントの情報や現場レポート、町役場からのお知らせなど、一宮町ライフに関する情報を発信しています。

Copyright © 2013 一宮町役場. All Rights Reserved.

※注 2

大分県耶馬溪町の下郷地域を元気にするプロジェクト「下郷村」のフリーペーパー「雲与橋」。



※注 3

他の自治体の防災無線活用事例（鹿児島県鹿屋市串良町柳谷集落）
集落有線放送を使った「親への感謝の気持ちのメッセージ放送」

柳谷集落では集落の有線放送を活かし、毎年「母の日」と「父の日」に故郷を離れて生活している子どもたちから、自分たちの親へ宛てて、日頃は言えない感謝の気持ちを伝える思いやりの取り組みがある。放送には地元の高校生グループ（柳谷高校生クラブ）が一役買っており、寄せられた手紙の代読役を担っている。平成9年から始まったこの取り組みは、当の母親・父親だけでなく、集落に暮らす多くの家族と代読にあたった高校生をも感動させ、柳谷集落における「感動と感謝」の地域づくりの原動力となっている。

提 言 2

政策名：空き家を活用した長南町への定住促進

1 目 的

本町に多数存在する空き家や空き建築物を有効活用することにより、若者を始めとした多世代の定住移住の促進を図り、過疎の進展を抑制するとともに生活環境の維持や町の活性化を進める。

2 現状と課題

本町の空き家・空き建築物は、他の自治体と同じく核家族化の進展や高齢者の増加及び若者の都市部への移住などにより多くの物件が存在している。

特に、町の中心市街地である県道147号線（長柄大多喜線）沿道には、空き家や空き店舗が多数存在しており、いわゆるシャッター通りとなっている。

このように空き家が増加することにより、地域の活力低下や行政運営の効率性の低下も懸念されている。

町では、これらの空き家等の有効活用を進めて、定住移住者の増加と空き家の解消を図るために、平成18年に「空き家情報バンク制度」を創設し、鋭意事務を進めてきている。

しかし、空き家利用希望者数より空き家提供者数のほうが少ないというミスマッチのために制度の効果が極めて低い状態にある。

これは、空き家所有者が不明だったり所有者へのバンク制度の情報発信不足によること。また提供者が、利用者と地元住民間のトラブル及び片付けや補修費用等の負担に不安を持っているからと思われるので、これらを解決していく必要がある。

なお、空き家を活用した福祉施設やコミュニティ施設を町が事業主体となり整備をし、町の活性化を進める必要がある。

3 政策の内容

(1)「空き家情報バンク制度」の充実化

「空き家情報バンク制度」を有効に活用するため

- ①町に（仮）定住移住推進係を設置し、主体となって空き家物件の相談から入居手続きまで支援する。
- ②リフォーム費用、後片付け費用等の補助制度を創設する。
- ③町が宅建業者に物件仲介を委託するサブリース方式を導入する。

このように町が主体となることにより、提供者、利用希望者双方の不安の解消や事務の円滑化が図れるとともに、サブリース方式の導入により双方が安心して賃貸、または売買の契約を結ぶことが可能となり、空き家の利活用が促進されることが予想される。

ただし、基本的な考え方は、初期は町がある程度資金と事務を執り行い、軌道にのった時点で民間が主体的に行うこととして、町は信用と指導を中心とする体制とする。

(2) 空き家バンク情報制度の情報発信の充実

- ①物件情報の充実（現書式に設備や建物の改修等の必要性の有無、主要施設への距離等を追加）
- ②生活情報や周辺環境及び移住後の生活がイメージできる移住者体験談の発信
- ③活用できる移住定住支援策の発信
- ④町の魅力や観光の発信

これらを総合的に町ホームページやチラシ等で発信することにより、本町での生活イメージがわき、田舎暮らしや二地域居住希望者の移住定住の動機付けになると予想される。

(3) 空き家提供掘り起しの活動

空き家提供者数を増やすためにパンフレットを作成する。パンフレットには空き家増加による近隣への影響、町としての取り組み、空き家提供の奨励金などを記述する。

配布先

- ①区長経由で該当者宅へ
- ②町外在住者への固定資産税通知に同封

(4) 奨励金・補助金制度の創設

国の補助事業を活用して奨励金・補助金制度を創設する。

①空き家バンク登録促進奨励金

空き家バンクに登録された賃貸物件が成約になり3ヶ月以上賃貸借された場合に、所有者に対し物件の準備代として奨励金を交付する。

金額は町財政を考慮して決定し、この金額は例として示す。

対象者：空き家バンク賃貸物件登録者

奨励金額：10万円/物件（1物件につき1回限り）

②空き家利用促進事業補助金

空き家バンクに登録された物件の所有者や登録された物件を購入または賃貸借契約した転入者に対し、修繕費等の一部を補助する。

対象者：空き家バンク賃貸物件登録者

登録物件を購入または賃貸借契約した転入者

補助金額

改修事業：改修等に要した費用の1/3 上限50万円

除却事業：建物の撤去や土地の整地に要した費用の1/3 上限50万円

転入促進事業：賃貸借に係る仲介業者に支払う手数料の全額

(5) 「空き家活用・定着促進相談員」制度の創設

町と関わりを持つ者が空き家活用や定着促進のための相談員として空き家探しや居住後のガイダンスと相談対応(近隣との関わり方、ゴミだし、等)のボランティア活動ができるようにする。

(6) 町による戸建て住宅や住宅以外の用途への活用

町が、町の活性化や地域のコミュニティの維持再生を図るために、国の補助金を活用して空き家を借り上げ、若者夫婦向けの戸建ての町営住宅やコミュニティビジネス施設(レストラン、特産物販売所等)及び、子育て支援施設等を整備する。

なお、空き家の賃貸・売却については、本町の特色である豊かな自然と伝統文化を継承し活力ある街として発展させていくためにも、

- ・アトリエや作品発表の場を求める若き伝統工芸職人
- ・高齢化の進展による後継者不足を補うための農業後継者
- ・地理的好条件(都心から1時間)を活かしホームオフィスとして在宅で仕事をする人
- ・健康と地球の持続を望むロハス志向の技術者

に、優先して行うことも検討する必要がある。

4 参 考

(1) 近隣自治体の補助制度の例示(睦沢町)

①空き家バンク登録促進奨励金

空き家バンクに登録された賃貸物件が成約になり3ヶ月以上賃貸借された場合に、所有者に対し物件の準備代として奨励金を交付する。

対象者：空き家バンク賃貸物件登録者

奨励金額：10万円/物件(1物件につき1回限り)

②空き家利用促進事業補助金

空き家バンクに登録された物件の所有者や登録された物件を購入または賃貸借契約した転入者に対し、修繕費等の一部を補助する。

対象者：空き家バンク賃貸物件登録者

登録物件を購入または賃貸借契約をした転入者

補助金額

改修事業：改修等に要した費用の1/3 上限50万円

(町内の住宅事業者等の利用などで加算制度有り)

除却事業：建物の撤去や土地の整地に要した費用の1/3 上限50万円

(町内の住宅事業者等の利用などで加算制度有り)

転入促進事業：賃貸借に係る仲介業者に支払う手数料の全額

(2) 国の補助事業

① 空き家再生等推進事業（活用事業タイプ）：国土交通省住宅局

- ・地域の活性化に資する空き家や空き建築物活用（宿泊施設、文化施設等への改修、空き家住宅取得、空き家所有者特定等）のための改修費や除却に要する費用を補助
- ・事業主体は、市町村、民間
- ・地域は過疎地域、産炭等地域、全国の区域（平成25年度まで）
- ・補助率は、事業者が市町村1/2 民間は1/3

② 定住促進空き家活用事業：総務省

過疎市町村が、地域における定住を促進するために、空き家の改修を行う場合は、必要な経費に対して補助（補助率1/2）を行う。

(3) 長南町が実施立案で参考になる事例などの情報

① 国土交通省

「空き家活用の事例」PDF版

② 農林水産省

広域連携共生・対流等対策事業の「地域を元気に！ 自治体向け 空き家活用マニュアル」

③ 徳島県の空き家対策・事例集

提 言 3

政策名：「市」の復活による長南町の活性化と移住定住の促進

1 目 的

「市」の開催は、長南町の農産物や伝統工芸品（竹細工、芝原人形、長南袖凧、紅花染め）を始め、地元商店や飲食店並びに町在住のアーティスト作品（陶芸、染色、家具、彫刻）など、長南町ならではの魅力の数々を集めて紹介する事により、来場者の本町への興味が拡大されるとともに農産物等の販売による町経済の活性化にも寄与する事が期待できる。

この「市」を復活することにより、交流人口の拡大を進めて町の魅力を広くアピールし、若者を始めとした多世代の移住定住を促進させる。また、町への資金還元と活動資金獲得も可能となり、本町の活性化が図れる。

2 現状と課題

本町では、核家族化の進展や若者の都市部への移住等により、町全体に高齢者の割合が増加するとともに人口減少も進展して従来の商いを維持することが困難になり、空き家や空き店舗が増加している。長南町が目抜き通りである長南商店街(県道147号線（長柄大多喜線）)は、いわゆるシャッター通りとなっており、町全体的に活気が無くなっている状況にある。

この長南商店街では過去に市を開催し、人の集まりによる物品の交易を基本に、情報の交換、特産品の販売及び商店街や町の活性化に寄与してきた。

現在、残念ながら市は開催されなくなっており、このまま状況の改善がなければ、今後、更に閉店や倒産に追い込まれる商店が発生し、益々、町自体の活力が低下し、行政運営の厳しさが増すものと予想される。

しかし、本年4月27日の圏央道の供用開始により、東京神奈川方面などから本町へのアクセスの利便性が向上したため、インパクトのある「市」を開催することで、より多くの観光客を誘導し交流人口の拡大を進めて、町の活性化を図ることが期待できる。

この「市」を復活し成功させるためには、次の課題を整理し解決する必要があると考えられる。

(1)主催組織の設置と町の対応

「市」の開催には、町と商工会及び農林業団体や関係機関との協議、さらに出店者や地元住民の理解と協力が不可欠なため、広範な知識とコーディネート能力などを持つ組織の設置が必要と考えられる。

また、多種多様な出店を募集するうえで本町「市」の独自色を創り維持していくために、「市」開催の基準や規程を整備する必要もある。

なお、この組織の設置を始めとした「市」の開催方法等について、町がどのよ

うに「市」の開催・協力出来るのか具体的な検討が求められる。

(2) 出店者の募集と開催情報の発信方法

長南町としての独自色を強めて出店者を募り、広く「市」を情報発信するための広報活動が重要なポイントとなるが、どのような方法、媒体を活用するか検討が必要である。

(3) 開催地と開催日の決定

「市」を成功させるには、開催地と開催日時の決定も重要なポイントとなると考えられる。

開催地としては「市」の目的が達成可能で、かつ道路交通法等の関係法令の許可も取得出来る場所が必要になる。さらに露店の設置や適正な駐車場の確保、及び来場者が行動しやすく安全確保が可能な場所（地域）を選定しなければならない。

また、より多くの人々を集客するため、本町の町並みと道路状況（幅員や交通量など）及び地域性等を考慮して開催日時を決定しなければならない。

3 政策の内容

前項の課題を整理、解決し、「市」を復活させて交流人口の拡大を進め、多世代、特に若者の移住定住を促進して町の活性化を図るため、次の施策への取り組みが求められる。

(1) 「市」開催実行委員会の設置

主催者として町と商工会及び各種団体等の代表、ならびにイベント開催に適した有識者による「市」開催実行委員会」を組織し、開催において想定される諸問題の改善や解決方法の検討を行い運営方法を決定する事が望まれる。

しかし、「市」を開催するまでには、関係機関との協議や関係法令の許可の取得及び地元住民の理解や協力が不可欠になると思われる。

このため、当初は町が主体となり関係機関等との協議などを進めて「市」を開催し、軌道に乗った時点で町が共催者となり、実行委員会の運営は商工会や各種団体等の民間の関係者で組織して行っていくことが適切ではないかと考えられる。

(2) 「市」開催の情報発信の充実

開催の情報は、次の発信方法（媒体）を活用して、広域にかつ的確な情報を発信する事が望まれる。

①長南町のWebサイトを活用する。

②町広報とコミュニティ紙や新聞社の地方版及び千葉テレビ等に掲載を依頼する。

③ポスターやチラシ等を作成し公共施設等で配布や掲示を行う。

また、住民等にITを利用した自発的な情報発信を奨励することも得策と考えられる。

(3) 出店者、参加者の募集

町内在住のアーティストと各地区や各小学校及び中学校単位での参加を募るため、実行委員会から参加募集を行う。

また、町内の商店や企業及び農業関係団体等へ出店をお願いするため、長南町農林業生産組合等連絡協議会、長南町商工会、長南工業団地進出企業の代表者を通して、出店者や参加者を募ることが適当と考えられる。

なお、出店及び参加が考えられる商店・企業・各種団体は、次のとおりである。

- ・地元商店
長南商店街と他地区の老舗人気商店や飲食店などの力を得てアピール場とする。→ 参考資料_その1 参照
- ・地元農家と営農組合等
農産物（米、古代米、蓮根等）や加工品等のアピールの場とする。
→ 参考資料_その2 参照
- ・長南町在住アーティスト
作品の発表、展示、即売の場として活用する。→ 参考資料_その3 参照
- ・地元民による手作り食品の販売
パン、ケーキ、菓子等の、手作りならではの味やアイデアが内包されており、B級グルメとして本町を広くアピールする効果も期待される。
そして、軌道にのった時点で近隣市町村の人気店を招致する。
長南町在住のアーティストやお店は、それぞれに固定客を抱えており、この客層を本町の「市」に呼び込むことで、更なる来場者の拡大を図ることが期待できる。 参考資料_その4、その5 参照

(4) 開催地と開催日の決定

① 開催地の決定

本町にふさわしい「市」の開催地を考えた場合、次の六つの候補地が考えられる。

1) 長南銀座商店街（県道147号線 長柄大多喜線沿道）

過去に市が開催された長南町が目抜き通りであり、圏央道や主要道路からのアクセス性も良好で、より多くの来場者を見込むことが出来る。

（メリット）

- ・保育園や小学校敷地などを駐車場として活用することも可能。
- ・既存商店街の活性化が図れる。
- ・市街地沿道を利用することで、沿道の空き家の解消が期待できる。

（デメリット）

- ・小湊鐵道等のバス路線であり、タクシー会社も立地している。
- ・交通量と道路幅員等から道路管理者や交通管理者との協議が必要である。
- ・商店や民家の軒先を使用して開催するので、住民等からの理解と協力が必要不可欠である。

2)熊野の清水（公園を含む一帯）

日本名水百選地であり、観光面からの集客が見込める。

（メリット）

- ・豊富な自然環境に囲まれていて、魅力がアピールしやすい。
- ・開催地までのアプローチが容易である。
- ・駐車場が整備されている。

（デメリット）

- ・出店数や来場者数により会場用地と駐車場が不足する恐れがある。
- ・町中心部から離れている。
- ・長南商店街の活性化への効果は低い。

3)長南町役場と公民館敷地

現在、長南フェスティバルの会場となっている。

（メリット）

- ・近接や隣接して公共施設等があり駐車場の確保が容易である。

（デメリット）

- ・長南商店街の活性化への効果はそれほど高くない。

4)農村環境改善センター敷地

（メリット）

- ・近接や隣接して公共施設等があり駐車場の確保が容易である。

（デメリット）

- ・出店数や来場者数により会場用地が不足する恐れがある。
- ・長南商店街の活性化への効果はそれほど高くない。

5)野見金公園

現在、春に桜まつりが開催されている。

（メリット）

- ・豊富な自然環境に囲まれている。
- ・開催地までのアプローチが容易である。

（デメリット）

- ・来場者数により駐車場が不足し路上駐車等の発生が懸念される。
- ・町中心部から離れている。
- ・長南商店街の活性化への効果は低い。

6)笠森観音堂に通じる二本の町道（参道）

町内随一の観光スポットで年間を通して観光客を見込める。

（メリット）

- ・国の天然記念物である笠森寺自然林などの豊富な自然環境に囲まれていて、長南町の魅力がアピールしやすい。

- ・国道 409 号に接道しており町外や圏央道利用者からもアプローチが容易である。
- ・町営駐車場や笠森霊園駐車場等が整備されている。
- ・一本の道路は、車両通行量が少ないので車両通止めによる開催の可能性はある。

(デメリット)

- ・長南商店街の活性化への効果はそれほど高くない。
- ・町中心部から離れている。
- ・町営駐車場へのアクセス参道は、車両通行止めが不可能である。

以上の候補地の中で、本町と長南商店街の活性化及び本町のアピール、さらに「市」開催の広告効果に最も適していると思われる場所は、長南商店街(県道 147 号線_長柄大多喜線)である。

しかし、本商店街での開催には、来場者と出店者の安全確保を図るための交通規制(片側通行止め、車両通行止め)が必要となり、バス事業者の同意や関係機関等の許可、更には沿道住民の理解と同意も必要になる。

このため、住民や関係機関等との協議が長引くことも予想されるため、残る候補地の中からも、実現性が高く「市」の目的が達成できる最適な場所を順次検討し、開催されることを切望するものである。

なお、開催地において駐車場が不足する場合は、他の公共公益施設や民間の空き地等を活用し無料開放するとともに、シャトルバスによる無料送迎の実施も検討することが望ましい。

②開催日の決定

開催日時については、圏央道利用者や観光客及び近隣市町村の住民が来場しやすく、より多くの来場者を見込める、日曜日の午前 10 時～午後 3 時頃までが最良と思われる。

また、月一回の定例開催が望ましいが、当初は状況を観ながら年 2 回から 4 回程度の頻度で定期的に行うことが適切と考えられる。

(5) その他

「市」の開催時に、お祭りなどのイベント(フリーステージの設置、歌、踊り、演奏等の実施)とコラボレーションすることにより、集客の拡大に努める。

また、伝統料理などの実演や試食も行い町の文化の普及に努める。

なお、空き家の解消を進めていくために、「市」の開催に併せて空き家を活用した「アートイベント」を実施し、若い世代へ店舗としての利用促進を図っていくことも望まれる。

4 参 考

“市”の開催により期待される効果：

⇒ 長南町ならではの魅力のアピール

- 衣料店、文房具店、金物店、畳屋、建具屋など残存する商店の活性化。
- 長南銀座商店街の空き店舗と空き家の利用。当初はシャッター街での“市”だが、やがては空き店舗への新たな入居者の確保と活用が期待できる。
- 長南町ならではの環境を活かした生活のアピール。
都市部では困難になってしまった活動拠点として。
良くも悪くも長南町は時代の流行や変化に流されない環境が確保しやすく、現代人の生活に適した豊かな環境をアピール。
→ 自然、土地、生活、農業

また、以下の点についても魅力に繋げやすいと考えられる。

- ・子育て支援。
- ・活動拠点として新たな可能性の提示

例えば……“市”により情報が活性化し、有機栽培などを中心とした農業など、市場のニーズに添った転換や展開など、生産及び市場開拓の情報発信の場となりうる。

→ 仕事が拡充されることで新たな就労者と定住者の確保が期待できる。

●アート之力

- ・イベントしての内容及び演出(雰囲気)を充実させやすい。
- ・世代によらず周辺から注目を集めやすい。
- ・作家それぞれが抱える客層を、町外から呼び込むことができる。
- ・若い世代へのアピール力(購入者、及び新たな定住者)

人間は“感動”と“自己表現”を欲します。

どの道も追求すればアートになります。

長南町在住のアーティストの活躍が、次世代への新たな刺激となります。

長南町在住のアーティストを中心に集め、

“町全体でやろう！”という流れを打ち出します。

●長南町の環境のPR

- ・(豊富な自然、歴史的および文化的施設、地元産業、教育環境、サービス業含む)
- ・長南町の名所_旧跡_史跡_自然環境の写真コンテストを併催したり、学校活動の紹介、長南町の魅力を討論することで、長南町住民の意識

が喚起できる。

●空き家情報の掲示

- ・長南町に興味を持っていた方々への、具体的かつ有効な不動産情報の提供。
- ・改築案、改築例の掲示も含めると、より具体的な情報になる。

なにより“市”として楽しみながら人を集める

⇒ 長南町を知ってもらうきっかけ作りを図る。

これこそが最大の目的と考える。

- ・“市”が毎月のイベントとして発展し、定着できれば、定期的な収入に結びつけられ、飲食物の販売にはじまり町の産業の活性化の基点として期待できる。
- ・長南町で活動している作家さん達のアピール、作品発表の場として活用し、また、新人作家さん達の発表の場として、ひいては活動拠点としての住居と永住の場として、発展が大いに期待できるわけです。
- ・また、有機栽培による米や野菜など自然食、それらを使った料理など、多岐にわたる出展者が集められます。多くの分野を集めることで、より多くの集客が期待できる。
- ・来町者の多くは、長南町の特産品をはじめ、記念品的なものを求めています。家具や絵画、彫刻、器などのアート作品ならば、さらに次回“市”への期待が高まり、安定した集客と収入に発展できます。来町者が増えることで、長南町の豊富な自然環境が認知できるきっかけが生まれ、新たな入居者が期待できる。
- ・現住町民の方々にも、長南町の魅力再発見のきっかけとなるため、人口流出の歯止めや、Uターン者を増やすきっかけとして、大いに期待できる。



長南町は良くも悪くも、大規模な開発がなかったおかげで、日本の美しくも豊かな原風景が現存し、実際に生きています。

“市”をきっかけに、これら長南町の魅力がアピールできる機会がもたらされます。

5 参考資料

5_1：“市”の開催により期待される効果

○その1_地元商店のアピール(商工会含む)昔から営業続ける星野薬局、加納豆腐店、川村精肉店など、長南町で馴染みのある現在も好評の商店をメイン

にしながら、長南町に在る人気の飲食店やショップの出店、さらに商工会を含め出店を募り古い店舗のファサード(外観)も含め、象徴的に有効活用することでよりアピールできる。

(注：商店を持たない方々はテントや軽トラを利用したブース設営が可能)

○その2_地元在住の農家さん、及び営農組合(農作物、加工品)。

- ・米 → 秬、玄米の魅力を含め(安全米が前提)
- ・古代米 → 古代米大福、
- ・レンコン → きんぴら、ソテー
- ・枝豆(大豆) → 豆腐、豆乳ヨーグルト、味噌、豆造
- ・麦(小麦、うどん粉、地粉) → パン、うどん、麦茶
ケーキ、菓子、クッキー
- ・ウコン → 胃腸薬、カレー
- ・椎茸 → 干し椎茸、
- ・竹の子 → 水煮、
- ・梅 → 梅干し、梅ジュース、ゼリー、梅ジャム
- ・ふき → フキ煮、佃煮、フキ味噌、落の莖天ぷら
- ・タラの芽
- ・ゼンマイ、ワラビ、キノコなど豊富な山野草
- ・セグロイワシのごま漬

*地元である長南町の産物とその加工品の販売によって、季節毎に穫れる豊富な食材をアピール。

○その3_長南町在住アーティスト！

プロorアマチュアを問わず、長南町で活動している作家さん達をアピール(陶芸、染色、染め織り、絵画、木工、家具、彫刻、ガラス細工)。

作品発表、及び展示&販売の場として活用。← 来場者はつねに購入、製作体験を求めている。

○その4_手作り食品の販売(地元在住)

- ・パン
- ・ケーキ、菓子
- ・ラーメン
- ・そば
- ・etc.

*思わぬアイデアが内包されていて、B級グルメとして長南町をアピールできる発展が期待できる。

○その5_近隣の人気店を招致

- ・天然酵母パン

- ・有機栽培農家
- ・有機食材使用レストラン

*在住アーティストと同様に、それぞれのお店が抱えている客層を“市”呼び込むことが期待できる。

また、その店のポリシーによって、世間のニーズや方向性の認知、提唱、定着を図る。

5_2：“市”の成功例

⇒ 別添付 PDF データ参照

5_3：“市”の実例参考写真



5_4：アーティストによる出店実例参考写真







5-2: “市”の成功例



※ マリポーザとはスペイン語で数々の意味

アメリカカ田舎町のフェスティバル紹介

～カリフォルニア州マリポーザ町～ 2013/09/21 by 長谷川 明之

特別でなく、
その街らしさと工夫で盛り上がるイベント事例

25

●フェスティバルの内容

- ・熊の保護活動として、飼育した熊を野に放す
- ・パレード(学校、業者、個人のためのアピール場)
- ・出店のテント村(農通り公園にてアートマーケット、飲食の屋台)
- ・既存レストランの特別メニューでの参加
- ・各商店によるこの日限定の仕掛け
- ・帽子コンテスト(競馬チーフ)
- ・ちびっ子コスプレ衣装コンテスト(競馬チーフ)

●会場の雰囲気作り

- ・通りと街には大がかりな看板やセツトは用意されて居らず、看板があるからこちらに誘われて居るだけで、統一された雰囲気を充分に出しています。
- ・さらに、仮装……多いのは少ないですが、假装をあしらった衣装を着た子供がただ会場にいて楽しんで居る事により、自然に雰囲気が演出されます。出店にフェイスベントをしてくれるブースがいくつもあつて、何も用意して無くても、気遣いお祭りに参加できる準備があります。

犬も仮装して参加！



●仮装コンテスト

一帽子コンテストのチャンピオン作品。振動モニターにより、あたかも蝶々が飛んでいるように見える。

↓キャラクターのぬいぐるみがいて、子供達が楽しめる。
また、仮装した姿が歩いているだけで、お祭りの雰囲気が大いに盛り上がる。



●商店街の仕掛け

→飾り付けて特別メニューを用意するなど、それぞれ趣向をこらして参加。多くの来町者がお金を落とすといくことに繋がっています。

- ・フランチャイズ店(ファーストフード系)
- ・ホテル
- ・みやげ物屋
- ・靴、洋品店
- ・本屋
- ・スーパーマーケット

●パレード

出場するのは、地元学校のブラスバンドにミスコンクィーン、農業団体、学生グループ、地元消防隊と警察、消防署、個人グループまで様々。それぞれのアピールの場となっている。





●テント村

(まわりに訪れる人々の二次的楽しみ)

- ・公園から裏通り、駐車場を解放して民間
- ・地域の飲食店
- ・みやげ物屋
- ・地元のアーティスト
- ・農産物直販とくに有機野菜
- ・周辺のレストランの出店
- ・パン屋、お菓子屋

個人テントノック、一般も業者も問わず



長南町に置き換えると……

- 紫雲→レンコン、和花、紫耳、袖風、市
タルというのもあり
- 浅草コンテスト_ちよな丸?!(レンコ
ン、和紙(袖風)、和花、紫耳)
- 日本の原風景_写真コンテスト
- ・長南町のイメージを高める材料
- ・名所マップの素材

結果→町民が愛する物が再認識できる!

歴史ある町として、商店街をメインに、古
い町並みや民家、"美しい国"日本の原風景
として、豊富な想像を前面に打ち出す。

3, 今後策定する政策の方向性

提言 4

農業経営のイノベーションによる長南町の活性化と雇用の創出

提言 5

創造型産業の醸成と誘致による長南町の活性化等、新たな雇用の創出

提言 6

子育て支援の拡充と交流拠点整備による長南町の活性化

提 言 4

政策名：農業経営のイノベーションによる雇用の創出と長南町の活性化

1 目 的

本町の基幹産業である農業経営や栽培技術等の革新を進め、農業による雇用の創出を図るとともに自然豊かな本町の田園風景の保全に努めて、町の活性化を図る。

2 現状と課題

本町は、房総丘陵に位置し、比較的起伏のある低山地帯の山間部に優良な農地として多くの水田を有している。

農業は、主に水稻栽培であり、他に県内一の生産量を誇る蓮根や一部地域での転作による麦・大豆などが栽培されているが、畑地が僅かなため販売用の野菜や果物栽培への取り組みは進んでいない。

また、専業農家はわずかであり、農業所得が低い経営規模が1hr以下の第2種兼業農家が大部分を占めている。

近年は、農業従事者の高齢化や後継者不足により耕作放棄地が増えて、農地の荒廃が進むとともに有害鳥獣被害も深刻な問題になっている。

町では、本町農業を農家全員で守っていくため、長南町全農家参加型農業推進計画に基づき、集落営農（営農組織、大規模農家、生産組合の育成）等の推進などに取り組んでいるが、現在までに三地域での農事組合法人の設立にとどまっている。

なお、国では、環太平洋経済連携協定等の参加による農産物等の国際競争に備え国内農業の競争力強化を図るため、農業の担い手に農地の集積・集約化を進める（仮称）農地中間管理機構の整備を都道府県単位で行うことを計画している。

このため、本町としても、この農地中間管理機構に協力して農地の集約化を進めるとともに、集落営農等の設立推進を図っていかなければならない。

一方、東日本大震災による福島原子力発電所の事故等により、従来にも増して国内で食への安心安全への意識が高まっており、本町においても早急に安心安全な農産物の生産と販路拡大への取り組みが必要である。

3 政策の方向性

本町農業の課題解消に向けて、次の（１）から（４）の解決方法を基本として、今後、政策の策定に取り組んでいく。

（１）農業生産法人（会社組織）の設立推進と改革

農業生産性の向上を図るとともに、新たな就労場所として町内外から若者の新規就労者を誘導して後継者の育成・確保を図るため、町主導により経営能力に秀でた人材を誘致または育成して

①(株)会社制による農業生産法人の設立を推進する。

②農事組合法人から（株）会社への組織の転換を促進する。

なお、必要があれば町外の農業生産法人の誘致も検討すべきである。

また、これらの法人は、生産から加工、流通、販売まで自主的に行える組織とすることが望ましい。

(2) 農業生産性の向上と農地の多重活用の推進

国が、都道府県単位に整備を予定している(仮称)農地中間管理機構による担い手への農地の集積・集約化に協力して、本町も大規模家族経営者や組織経営者等への農地の集約化を促進するとともに、効率的な水田輪作営農により農業(労働)生産性の向上を図り農業所得の増大を進めるため、

- ①(仮称)農地中間管理機構に協力して大規模家族経営者や組織経営者等に農地の集積と集約化を促進し経営規模の拡大を進める。
- ②町の指導協力のもと、水田の改良を進めて、稲、麦、大豆、野菜等を組み合わせた効率的な水田輪作営農に取り組む。また、ビニールハウスや温室などを利用した促成栽培など導入して経営の安定化を図る。

本町の水田は粘土質の土壌が大部分であるが、水田の水位を地下までコントロール可能な地下水位制御システム等の導入により、水田を畑として多重活用することも可能と考えられる。ただし、このシステムの導入には、約16～20万円/10a必要であるため、町の補助金制度の整備が望まれる。

なお、ハウス等による促成栽培等も奨励して、より安定的な農業生産基盤を確立することが肝要である。

(3) 生産特別区域の整備と地域ブランド化(特産品化)の推進

町外農産物との差別化や環太平洋経済連携協定等の参加により、今後、確実視されている国内及び輸入農産物との厳しい競争に備えるため

- ①本町農産物の地域ブランド化を推進する。
- ②農業実習施設やブランド品の生産地とするため、町有地や谷津の耕作地全域を町で借り上げ生産特別区域に指定し、公募等により農業生産法人などに貸し出す。

この生産特別区域において、本町の気候や土壌などを基に最適な農産物を官民で調査研究し、減低農薬から有機、延いては無農薬による栽培を進めて、本町農産物の付加価値を高め地域ブランド化を図って行く。そして軌道にのった段階で、順次、生産特別区域を町内に拡大していくことが望ましい。

なお、生産特別区域の整備は、当初は、町が主で民間(組織経営団体等)が従の体制が好ましいと考える。

(4) 農産物の販路拡大の推進

本町農産物を首都圏及び全国、ひいては諸外国に広く認知してもらい販売量を増大するために、

- ①町による広報活動または組織経営団体等による営業部門を創設して、積極的に町農産物の営業活動を行い、新たな市場の開拓を進めて販路の拡大を図る。そして、この営業部門の創設により、従来の作ってから売るプロダクトアウトから売れるものを作るマーケットインへの営農システムの変換を推進する。
- ②圏央道の開通による都心へのアクセス性の向上と羽田、成田空港に近接する好立地性を活かして農産物の国内販売と輸出を促進させる。
- このように、本町農産物を町（町長のトップセールス含む）と経営団体等により、積極的に広くPRして、大型ホテルやレストラン及び外食チェーン店等の新規市場を開拓し販路を拡大するとともに、マーケットインの採用により、効率的でかつ安定的な農業経営基盤の強化を図ることが可能と考えられる。また、将来的には、東南アジア等への輸出も視野に入れて新たな市場の開拓に努めることが望ましい。

提 言 5

政策名：創造型産業の醸成と誘致による

長南町の活性化等、新たな雇用の創出

1 目 的

「自然が誇り・住むことが誇り・元気な町 長南」となるために個人ベースと企業ベースの両面を対象にして、「町の核」となる創造型産業を起し、育成し、発展させる。また、創造型産業も積極的に長南町へ受け入れる。

2 現状と課題

(1) 長南町の強みが生かせてない。

- ①圏央道開通による都心とのアクセス改善
- ②海拔は20m程度以上を有し、地層は主に笠森層の上にあり、関東大震災などの災害の影響が少ない場所（下記参考を参照）
- ③粘土質の良質な土質（多くの食品で味が良い）
- ④お金では買えない里山などの環境がある

(2) 安易に町外に目がいつている。

町おこしをしなければならないとの危機感が希薄で、近隣市町村や首都での生活や仕事を求めがちである。

(3) インフラ整備が整っていない。

現在長南町では、生活する上での多くのインフラは整ってきてはいるが、一部に下水インフラの未整備地区がある。

通信インフラとして光回線が整備されているものの、ITの分野で利用状況が低いために、都心部に比べてインフラ整備はこれからである。

(4) 各種分野への人脈が生かされていない。

情報関連やデザイン又はアート関連、音楽や映像などの関連などと各種知的財産権を活用した産業に係る人材への人脈やノウハウが生かされていない。

同産業に係る人の横のつながりがなく、相互協力・協業がされていない。

(5) 町全体としての体質が、外部からの人や物を受け入れない状況が見られる。

町全体として、古くからあまり外との文化交流が少なかったこともあり、外からの転入者に対してよそ者扱いにし、新たな発想や取り組みがなかなか活性化しない。

3 政策の方向性

本町の課題の解消を図り創造型産業の醸成と誘致を推進するため、次の（１）から（７）の解決方法を基本として、政策の策定に取り組んでいく。

（１）人材の素材作り

- ①空港代替地を無償提供しＩＴを含む工学部、またはバイオを含む農学部を誘致する。
- ②長南町在住の小学生・中学生を対象にして理系・アート系に特化した課外育成をする。
- ③「田舎暮らし体験ツアー」を通して町外の人々に長南町の良さを知ってもらい、長南町に馴染んでいただき、長南町の人材になっていただけるようにする。

（２）長南ＩＴバレー作り

ソフトウェア開発やシステムセンター及びデータ保管センターを誘致する。

特にシステムセンターやデータ保管センターは、長南町が過去に大きな災害の発生がなかったことや、首都との交通アクセスの利便性が高い地域であることをアピールする。

（３）首都の企業に在籍し、在宅でホームオフィスとして仕事をする在宅勤務者を積極的に受け入れる

長南町は行政として「積極的なホームオフィス受入れ」宣言をする。

在宅勤務者には、自然豊かな長南町での生活を楽しんでもらいながら、休養とリフレッシュをして、創造的な発想も含めて生活と仕事を楽しんでいただく。

首都の企業での打合せへのアクセス路として、圏央道や圏央道を利用したバス路線の利便性をアピールする。

住居として空き家等を活用していただく。

ゆくゆくは、在宅勤務者の繋がりを作っていただき、それを町として支援をしてゆく。

（４）芸術を創り楽しむ町にするために、音楽や美術そして文学などの創造的な人々が住みやすい町にする

デザインまたはアート及び音楽や映像関連などの各種知的財産権を活用した産業に係る人材を積極的に受け入れる。

空き家を活用して住んでもらい、空き家貸主の了解のもとでその芸術向きに空き家を改造し永住してもらおう。都市部と異なり敷地間の距離が長いので隣家へ迷惑にならない範囲で音や煙が出せる利点を活かしてもらおう。

現在、長南町在住でこのような仕事をしている人の姿や生活の様子をインターネットで紹介する。

それらの人々の横のつながりのコミュニティ作りをしてもらい、お互いに良い刺激をし合い、さらに創造的なことが生まれる相互協力や相互協業ができる町に

する。それにより、さらにその産業に係る多くの人々に集まってもらえるようにする。

(5) プロ食材提供ビジネス（葉っぱビジネス、海外系食材ビジネス）の創業と推進

首都圏中心部へのアクセス優位性を生かして、情報の得やすさと物流の利便性を強みとしたプロ食材提供ビジネスを創業しその拠点となる。

①対象ビジネスとして

- ・葉っぱビジネス 例：あおもみじ、ささ、南天、など
- ・海外系食材ビジネス 例：アーティチョークなど

各国の料理を対象に

②事業推進方法

事業推進グループを町民有志と町で立ち上げる。

③ビジネスエリアとセリング方法

- ・首都圏のレストラン・レストランチェーン・料亭・ホテルなどを対象にする
- ・青果市場利用もあるがそれ以上に足で稼ぐセリングルート作りをする

④ニーズ把握から対応までをシームレスなサイクル化を図る。

「ニーズを得る」→「R&D(研究・開発)」→「商品反応把握」
→「商品力向上」→「セリングルート拡大」

⑤ビジネス体制

セリングルート開拓・R&Dグループ / 生産グループ /
出荷発送グループ / 品質管理グループ

将来は法人化し、株式会社設立ができるようにする。

(参考ビジネス)

- ・徳島県上勝町の「いろどり」がある。
専用タブレット端末を使った集荷サポートシステムを有する
- ・長南町との比較
長南町は首都圏消費地に直近であるため、新鮮な商品提供が可能、地の利を生かしたニーズ対応のサイクル化が可能

(6) 創造型産業の推進チーム作り

町と住民有志による(仮称)創造型産業推進協議会を作り創造型産業の推進を図る。

(7) その他

- ①用地不足により都内等の自治体で整備が困難になっている特別養護老人ホームの設置の受け入れ
- ②天然ガス採掘に伴うヨード含有の灌水を利用して温泉または鉱泉を活用した日帰り施設や宿泊施設の整備も検討すべきである。

4 参 考

1. 長南町の過去の災害影響

長南町は主に笠森層の上にある。笠森層は堆積した火山灰が深海で圧縮され繋がった岩状の地層である。ほぼ連続した岩状の地層の上にあるため砂地等に立地する地域と比して地震に対して安定的で、海拔も有し地震災害の少ない地域である。

「1923 関東大震災報告書」中央防災会議災害教訓の継承に関する専門審査会、「関東大震災調査報告書」中央气象台などの資料を基に2013. 9. 1に朝日新聞がまとめた資料によれば関東大震災の本震の他に6つの主な余震（九十九里沿岸、鴨川沿岸）に長南町は囲まれながらも揺れ、液状化、津波の大きな被害が報告されていない地域とされている。

2. 参考用語

- ・創造産業とは、広告、芸術、映画、ゲーム、服飾デザインなどの知的財産権を持った生産物の生産に関わる産業
 - ・知識創造型産業とは、情報や知識、特許、技術、ノウハウといった無形の知的資源を原料として、これを加工して付加価値を付け、新たな知的生産物等を創り出す産業
- 例）情報関連産業、ゲーム等のデジタルコンテンツ産業、ナノテク関連産業等

提 言 6

政策名：子育て支援の拡充と交流拠点整備による長南町の活性化

1 目 的

町の将来を担う子どもの自活力※を醸成するため、町の伝統や自然、さらには、IT技術等を活用しながら子供達が感性を磨く機会を積極的に作っていく。また、その活動の場として、町内外の多世代が自由にふれあえる交流拠点を整備し、交流人口の増大と町の活性化を進める。

※一人で生きていける力

2 現 状

町では次の(2)-1に示すような子育て支援策を実施してはいるが、幼児期からの情操教育や知財教育活動への取り組み、関連施設の整備が進められていない(本物に触れさせる機会、図書室の充実)。

また、少子高齢化の進展に伴い、近い将来、四校ある小学校の統合も検討されている。一方、高齢者向けには、公民館事業の生涯学習や老人クラブなどの活動が行われているが、参加者は減少傾向にあり、活気が失われつつある。さらに、町内には、老若男女が気軽にふれあい、相談や情報交換出来る場所が整備されていないため、町の文化や伝統の継承が危ぶまれている。

(2)-1 現在の町の取り組み

○子育て支援

- ・出産祝い金(2子あたり10万円)
- ・子供医療費助成事業(中学3年まで助成、保護者負担無し)
- ・教育費負担軽減補助事業(小中学生の保護者の負担軽減)
- ・児童クラブ(小学校1年生～3年生)

○交流拠点、文化施設

- ・公民館
- ・図書室(公民館内)
- ・歴史資料館
- ・保健センター

3 課 題

○活動スペースが生み出されていない

- ・現在行われている旧長南幼稚園での活動は、放課後児童クラブと子育てサークルとのスペースの共有により、活動内容に制限がかかる。
- ・既存の施設が有効活用されていない。(常駐管理人の不在により使用が抑制されている。また管理やセキュリティ、経費負担が不明確である)

○“感性を磨く”機会がつくられていない。

- ・教養に係る活動がない（幼少期から本物に触れさせる機会〔生演奏の音楽・伝統工芸など〕の提供が少ない）。
- ・図書室の蔵書が貧弱。
- ・児童対象の各種の実践的な活動が実行されていない。

○ニーズの把握ができていない

- ・現在、活動中の子育てサークルは未就学児がメインだが、4年生以上、中学生対象のニーズが把握できていない。
- ・世代を超えた交流がない。

4 政策の方向性

本町の課題の解消を図り子育て支援と交流拠点整備を進めるため、次の（１）から（４）の解決方法を基本として、政策の策定に取り組んでいく。

（１）クオリティの高い学芸員と有識者による検討委員会を設置し、イベントを企画検討し、実践していく。（5_参考を参照。）

（２）将来の社会的活動の基盤となる情報交換力を高める

語学力を充実させる事で情報交換力を高める。また、パソコンやタブレット端末など、情報交換の基本となる IT の基礎的な正しい利用法を示しながら、活用力を高める。

（３）交流拠点の整備

長南町各地に既存する施設を有効活用し、図書館や音楽鑑賞や観劇できる多目的ホールなどの交流拠点を拡充する（例：東村役場跡、農協跡地、改善センター、さらに今後浮上する学校跡地など含む）。また、町にある空き家を寺子屋スタイルの学舎として利用。長南町は周辺地域より比較的教師が多いので、教師経験者を講師に迎え、学校の勉強について行けない子供の補習をはじめ、各種イベント実行場所として交流が広められる。

交流拠点が增多することで、同じ内容のイベントを各地域で実施することができ、世代を超えた交流が拡大する。

（４）子育て支援活動について PR

実行されている子育て支援活動を町内外に PR 活動することで、大都会部の待機児童の受け入れなども含め、子育てに適した住環境が整った町として長南町をアピールする。

また、鉄道だけでなく平成 25 年 4 月に開通した圏央道を含め、各都心へのアプローチしやすさが向上。就業だけでなく高校や大学など修学にも適した長南町の立地条件をアピール。

→ 情報発信と連動

5 参 考

芸術鑑賞やワークショップなど、各種の実践活動を通じて、次世代を担う子供達の感性と実行力を育成し、将来の自活力が高められることが狙い。また、長南町独特の自然と文化を学ぶことで、地元意識の向上を図るもの。

1._町（日本）の伝統文化に親しむ

- ・稲作と野菜作り（子供と老人の交流兼）
- ・竹細工
- ・袖ダコづくり&凧揚げ
- ・芝原人形
- ・長南カルタ大会（名所巡りツアー含）
- ・紅花染め
- ・歳神様製作
- ・しめ縄製作
- ・昔話（伝統のお話し、歴史）

2._文化活動に触れる

- ・絵画（鑑賞と実技）
- ・陶芸（同左）
- ・書道（同左）
- ・ガラス工芸
- ・クラシック音楽コンサート鑑賞
- ・観劇
- ・映画上映会
- ・コーラス
- ・サーカス
- ・移動遊園地

3._里山で遊ぶ

里山で遊ぶことで、各種の実践的行動力と工夫する感性が育成され、将来の自活力が醸成される。

- ・食用野草摘み（タケノコ掘り、キノコ狩り、山芋掘り、薬草）
- ・秘密基地製作（遊具や住環境の製作による体験と考察）
- ・救急方法（危険回避能力）
- ・野外料理教室（刃物や火を使う、味覚の醸成）

4._子供のボランティア活動

高齢者世帯を対象に子供達が活動し、ニーズに対する配慮とコミュニケーション能力を醸成する。

- ・家事手伝い（買い物、家の掃除、電球の交換）
- ・お話し相手

過疎対策提言書作成工程表

月 項目	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	摘要
課題の抽出 と 政策の提案		19										
第1回 提言政策 の選定		19										1. 空き家 2. 市の開催 3. 情報発信
政策の検討 及び とりまとめ		19	(検討)	21	12	(まとめ 精査)	30					4 長南農業 5. 創造型誘致 6. 子育て支援
第2回 提言政策 の選定				21								三部会で検討 政策を立案
政策の検討 及び とりまとめ					12	(検討)	(方向性)	30 (検討 まとめ)	30			
提言書の 作成と提出										(作成) 中旬	提出	
提言書 (中間とりま とめ) の提出								初旬 (中間 提出)				予算編成前に 中間とりまと めを提出し、 町と調整

